

有形文化財（考古資料）

ながもちがたせっかんふたいし  
長持形石棺蓋石

二基

附 石室天井石片 一基

（データ）

指定年月日（号数）：平成10年3月27日（市指定第16号）

時代：古墳時代中期 石材：凝灰岩製（竜山石）

法量：石棺蓋石（西側）全長320.0cm 幅60.0cm 直立）全長146.0cm 幅65.0cm

附石室天井石片 全長215.0cm 幅85.0cm

所在地：香芝市良福寺（阿弥陀橋東詰北側）

備考：見学自由

概要

狐井城山古墳の南約550m、初田川に架かる阿弥陀橋の東詰北側に保管されている。

西側の蓋石は、かつての阿弥陀橋に利用されていたもので、縦に半裁されている。また、直立する蓋石も割られて当初の4分の1を残すのみで、縄掛突起部を阿弥陀如来の頭部にみたてて祀られている。東側の板状石材は、竪穴式石室の天井石の一部と考えられる。

これらの石材は、昭和44年に初田川から引き上げられ、現在の地に設置されている。石材はいずれも兵庫県の竜山石である。この竜山石製の長持形石棺は、近畿地方では、古墳時代中期（5世紀）の大型古墳に埋葬されるもので、香芝市では、狐井城山古墳付近から発見された割抜式長持形石棺蓋石（市有形文化財）に次いで2例目で貴重な資料である。



阿弥陀橋の石棺（全景）



直立する蓋石



直立する蓋石の奥の森が狐井城山古墳



竜山石製・長持形石棺蓋石（R復元品）

香芝市ふたかみ文化センター前庭